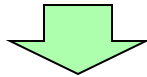


米子市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年11月～26年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 鳥取県西部地域の中心都市。古くからの交通の要衝であり、歴史・文化資源や様々な都市機能が集中。
- 空き店舗率30%、営業店舗の3/4に後継者がいない等商業機能の衰退は著しい。歩行者通行量がH9年からの10年間で1/4に減少する等、賑わいも減退。
- 市が中心市街地内に立地する大型店舗の継続立地を支援するとともに、郊外の大規模開発抑制等に努めている。

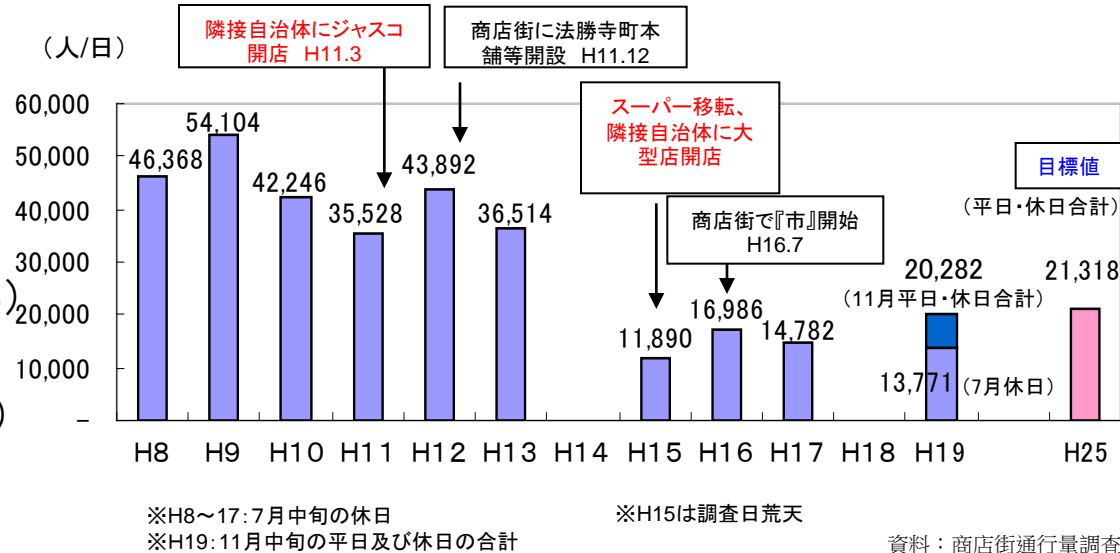


- 歩行者通行量
H9 : 54,104人 ⇒ H19 : 13,771人 (▲74.5%)
- 中心市街地の人口
H9 : 13,460人 ⇒ H19 : 12,059人 (▲10.4%)
- 年間商品販売額
H6 : 531億円 ⇒ H16 : 300億円 (▲43.5%)

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H25)
人が集い賑わうまちをつくる	歩行者・自転車通行量 (平日・休日合計・19地点)	20,282人 (H19)	21,319人
歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる	下町観光ガイドの利用者数 (年)	1,380人 (H19)	2,070人
	湊山公園の入場者数(日)	1,373人 (H20)	1,510人
住みたくなるまちをつくる	居住人口	12,059人 (H19)	12,159人

【歩行者・自転車通行量の動向と数値目標】



民間事業者の創意工夫により、法勝寺町・四日市町・角盤町エリアに、様々な人が集い、活動する賑わいの拠点を創出するとともに、その賑わいを中心市街地全体に連鎖的・有機的に広げるための歴史・文化・自然資源等の活用、福祉サービスの充実等により、人が集まり、歩いて楽しめ、元気に暮らせるまちを目指す。

米子市中心市街地活性化基本計画の事業概要

人が集い賑わうまちをつくる

○若者を対象とした店舗の出店により賑わいを取戻しつつある四日市町の書店跡の建物を活用し、**ライフスタイル提案型の複合商業文化施設**（物販、飲食）を開発する。



○四日市駐車場の複合開発事業について高島屋エリアとの連携に向けた検討を行う。

○鳥取大医学部の教養課程(235人×2学年)の移転に加え、商業エリアに**サテライトキャンパス**を設置し、簡易健康診断等による市民との交流を図る。

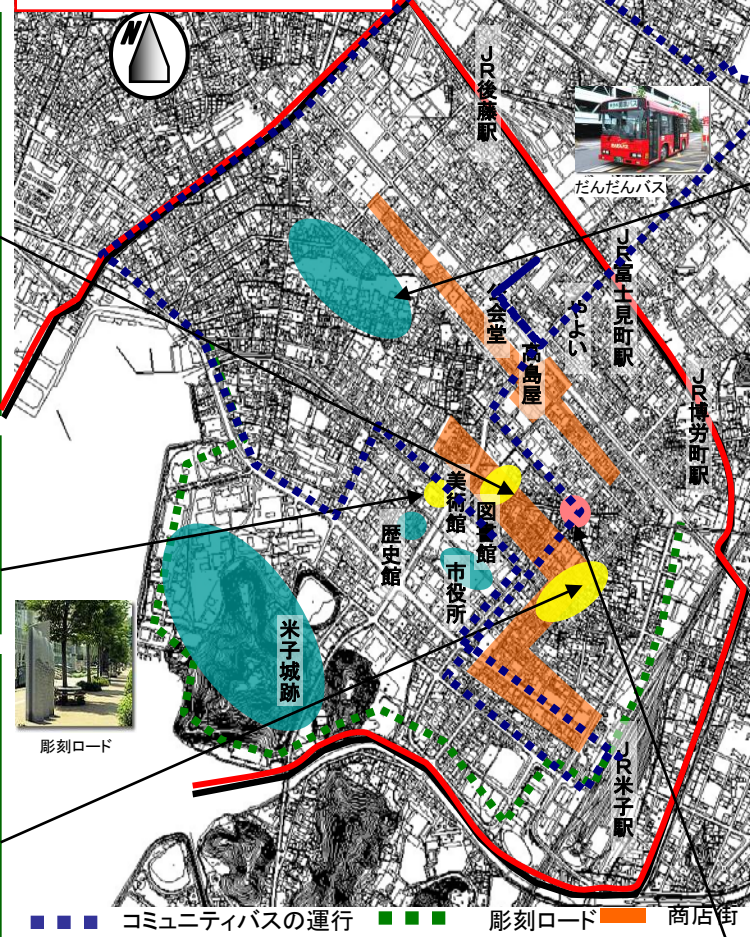
○法勝寺町の旧商家の佇まいや蔵等を活用し、**アーケード撤去**にあわせ、ファサード、道路、下水道等商業環境整備を行い、**“歩いていてどこか懐かしくなる通り”**を創る。



○近接する三連蔵に物販、ギャラリーを誘致し、核店舗として活用する。

○コミュニティFMのサテライトスタジオ、レストラン、ギャラリー、フリースペース、地域ブランド研究所等で構成される地域の文化・商業のインキュベーションや**地域情報発信**を行う施設を整備する。

中心市街地: 約300ha



歴史や文化、自然に触れ合えるまちをつくる

○川岸の白壁土蔵、町屋景観など街並みを修景し、**下町観光ガイド**の案内により、回遊を図る。



○山陰歴史館を改修し、2000点にのぼる古代雑の**展示充実**等を行う。



○米子城跡において内堀遺構等の史跡の保存・復元、登山道や案内板の整備を進める。



○美術館、図書館を改修するとともに、市役所の地下食堂を拡張し、カフェスペースとして両館と一体的な利用を検討する。



住みたくなるまちをつくる

○中心市街地に転入する**若年層等世帯**に建物固定資産税相当額を助成。

○敷地狭小のため**単独建替え**が困難な場合等に**共同建替**により一定戸数以上の住宅を供給する事業の調査設計画費等を助成。

○低利用地を活用し、**高齢者専用賃貸住宅**を核とした**複合施設**を開発する。

○独居高齢者や障害者を対象とした**介護サービス付共同住宅**を区域内で開発・運営。